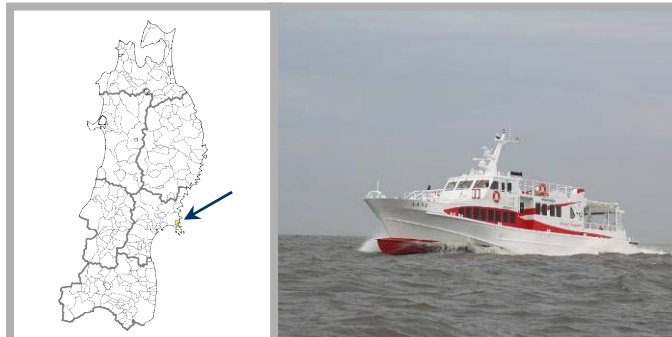


## 女川町(宮城県):第三セクター・シーパル女川汽船のしまなぎ

### 離島航路の統合による合理化

人口	10,723 人	モード	旅客船
面積	65.79 km <sup>2</sup>	法令	—
人口 密度	162.99 人/km <sup>2</sup>	運営 主体	シーパル 女川汽船



#### ■ 取組の背景

##### 地域と交通の状況

##### 【生活交通の確保】

- 宮城県牡鹿郡女川町は、牡鹿半島の北のつけ根に位置する港町。女川町には牡鹿諸島に属する有人島として江島(えのしま)と出島(いずしま)の2つの離島を有している。2つの離島には、出島航路と江島航路の各事業者が運航していたが、平成15年10月に出島航路の存続が危惧される状況に陥った。
- このため、宮城県、女川町、東北運輸局、出島、江島の両航路事業者により航路存続について検討を行った結果、出島航路事業者は、平成16年9月30日をもって離島航路事業を廃止し、同年10月から江島航路事業者が出島航路を引き継いで運航することになった。

#### ■ 実現したサービス

##### サービス内容

##### 【運営統合】

- 従来、女川～江島、女川～出島の航路は出島航路と江島航路の各事業者によって国庫補助航路の指定を受け、それぞれ運営されてきた。
- しかし、女川～出島航路事業者が撤退し、江島航路事業者がこれを統合し運営してきたが、女川町は、離島航路事業の恒久的安定化を図るため、行政主導のもとに行政補完型の第三セクター方式の新会社「シーパル女川汽船」を設立し、女川～江島航路の営業を譲受し、平成17年10月1日より本格運航を開始した。
- 新会社は、設立したばかりで船を所有しておらず、江島航路事業者の船を用船して運航した。
- 新会社は、鉄道・運輸支援機構との共有で新造船「しまなぎ」を建造し、平成18年8月6日より就航した。
- 新造船「しまなぎ」による航路の時刻表と運賃は、次のとおり。(詳細は資料編参照)
- 1日7運航、第1便は、朝6:20女川発～6:38出島発～6:50寺間発～7:03女川着 第2便が7:10女川発～7:36江島発～7:57女川着。以降2つの離島と女川間を5回循環している。
- 運賃は、女川～出島が大人750円、小人380円女川～江島が大人1,050円、小人530円

## ■ 効果と負担

### 効果

#### 【生活移動手手段の確保】【利用者数の維持】

- ・ 出島航路事業者と江島航路事業者の2社2隻体制から1社1隻体制になり、離島航路の欠損額が大幅に減少し、安定的に航路が維持される基盤が整った。
- ・ 離島航路の統合によるサービスの低下等が懸念されたが、女川町が両島の間を積極的に調整に動いたことにより、出島、江島の両島民の協同出資による新会社「シーパル女川汽船」が設立され、懸念は払拭された。

### 負担

#### 【市町村負担】【地域負担】

- ・ 新会社の設立への負担。資本金 3,000 万円を女川町が 55%(1,650 万円)、出島(島民の協同出資) 22.5%(675 万円)、江島(島民の協同出資) 22.5%(675 万円)。
- ・ 新造船の建造への負担。  
船価格 3 億円シーパル女川汽船 50% 1.5 億円(女川町補助金)、鉄道・運輸支援機構 50% 1.5 億円

## ■ プロセスと調整

### 計画策定と会議実施

#### 【プロセス:体制構築】

- ・ 平成 9 年出島航路事業者から航路廃止の意向が女川町に伝えられた。
- ・ それを受けて平成 12 年 8 月出島航路について、離島航路安定化のための委員会が町内に設けられ、航路存続の検討が続いた。しかし、平成 15 年 10 月に江島航路事業者から航路撤退の表明があり、それを受けて宮城県、女川町、東北運輸局、出島航路と江島航路の各事業者による航路存続の検討が重ねられた。
- ・ さらに、平成 16 年 3 月女川町議会に離島航路存続特別委員会を設置し、存続のあり方、航路等について検討された。同委員会には 2 島の代表も参加した。
- ・ その結果、江島航路事業者による出島航路の引継ぎを経て、平成 17 年 4 月には女川町と両島島民の協同出資からなる第 3 セクター会社「シーパル女川汽船」が誕生し、同 10 月から 1 社で 2 航路の運航を開始した。

### 運行開始後のフォローアップ

#### 【プロセス:フォローアップ】

- ・ 新会社設立に当たっての準備段階から、女川町は、江島、出島の両島民とのあいだで、航路や運賃等について積極的に調整を重ねた。運航開始後も随時、両島民との協議を重ねている。

### 他事業者との調整

#### 【調整:対事業者】

- ・ 離島航路の性格上、特に他の事業者が参入する意思はなく、他事業者との調整はない。

## ■ 創意工夫・知見・教訓

### 島民の理解と協力が必要

#### 【知見:住民意見の取り入れ】

- ・ 女川町は、資本金 3,000 万円の第三セクターの新会社を設立し、2 つの離島航路を引き継いだ。同社の設立には、江島、出島の島民による協同出資(各 675 万円)があり、自らの航路は自らの会社で守ることとした。
- ・ 両島は、女川町からの距離、島の大きさ、人口等、多くの違いがあり、航路の設定、運航時間、運賃等、様々な点で 2 社 2 隻体制の時代とは異なった運航になっているが、女川町が積極的に両島の島民の間を調整している。
- ・ 今後も、島民の高齢化と島の観光振興が難しい状況にあり、乗客は減少傾向にあるが、運航サービスのあり方について、女川町の一層の調整が引き続き求められている。

## ■ 連絡先、参考 URL 等

連絡先：宮城県牡鹿郡女川町町役場企画課 電話 0225-54-3131

参考 URL：女川町 <http://www.town.onagawa.miyagi.jp/maintop.html>

## ■ 資料編

時刻表							
便	女川発	出島発	寺間発	江島発	寺間発	出島発	女川着
1便	6:20	6:38	6:50	...	...	...	7:03
2便	7:10	...	...	7:36	...	...	7:57
3便	8:25	...	...	...	8:41	8:53	9:08
4便	9:30	9:48	10:00	10:20	...	...	10:41
5便	13:10	13:28	13:40	14:00	...	...	14:21
6便	16:00	...	...	16:26	16:44	16:56	17:11
7便	17:50	18:08	18:20	...	...	...	18:33

使用船舶：しまなぎ（62GT）軽合金製 定員100名 航海速力：22・0KTS

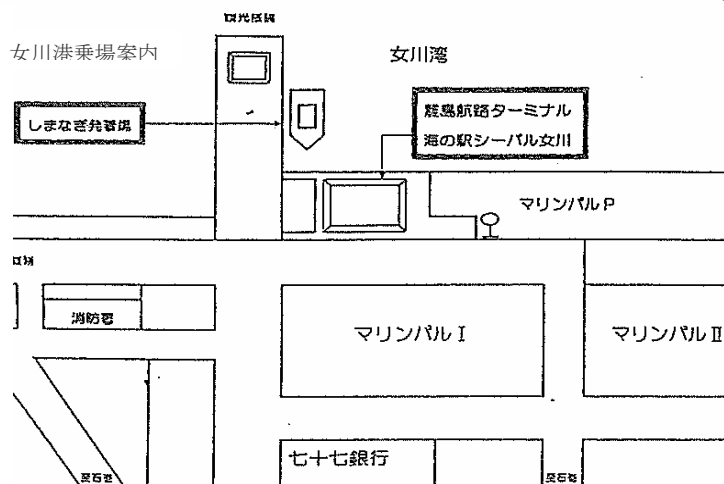
旅客運賃〔片道分〕		定期券 有効期間1ヶ月	
おながわ	上段：大人	女	川
女川	下段：小人	通勤	27,000円
1,050円	えのしま	通学	18,000円
530円	江島		
750円	300円	回数券（11枚綴り）	
380円	150円	有効期間 2ヶ月	
750円	300円	女	川
380円	150円	大人のみのみ	
		7,500円	出島・寺間

図. 時刻表と運賃

出典：シーパル女川汽船資料

## ■ 資料編

離島航路ターミナル内にて乗船券購入後乗船してください。



### 航路図【女川—江島航路】

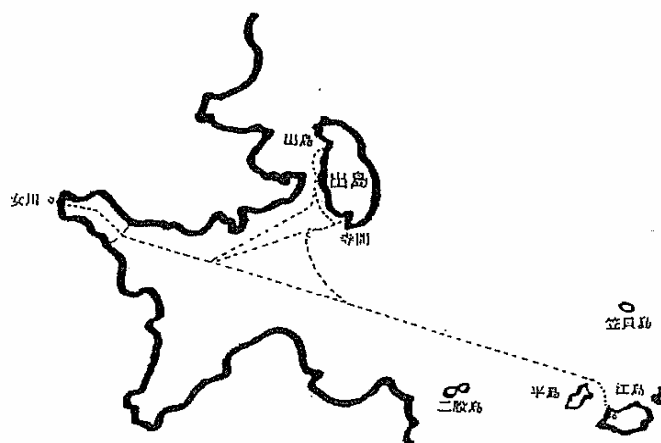


図. 乗場案内と航路図

出典：シーパル女川汽船資料